

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2015 年 5 月

「安息日（後編）」 「キリスト再臨のしるし」 「光の始まり」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「安息日(後編)」

4

聖書の教え

朝のマナ

「キリスト再臨のしるし」

10

われらの主よ、きたりませ

現代の真理

「光の始まり」

41

三重のメッセージ - もう一人の御使のメッセージ

力を得るための食事

「アップルサンドクッキー」

50

お話コーナー

「わたしの心を一つにして」

52

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2015 年 4 月 30 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover;

HighRes on pages 8, 52

Printed in Japan

神に近づく第一歩

神に近づく第一歩は、神のわたしたちに対する愛を知りかつ信じることである（ヨハネ第一 4：16 参照）。なぜなら、神の愛に引かれることによって、わたしたちは神のもとに導かれるからである。神の愛を知る時、利己主義は捨てられる。神を父と呼ぶことによって、わたしたちは神のすべての子らをわたしたちの兄弟と認めるのである。わたしたちはみな人類という大きな織物の一部であり、同じ家族の一員である。祈りのうちに、わたしたちは自分たちのことだけでなく隣人をも含めるべきである。自分のための祝福だけを求める者は、正しい祈りをささげているとは言えない。

無限の神は、父の名によって神に近づくことをあなたの特権とされるとイエスは言われた。このことの意味するところをすべて理解してもらいたい。世の親が、過失を犯した子供に嘆願するその熱心さにもまさる熱心をもって、あなたを造られたかたは罪人に嘆願される。人間のいかなる愛情深い心も、悔い改めない者をこのように優しく招きつづけたことはなかった。神はすべての住居にお住みになる。神は、わたしたちの語ることばや、ささげるすべての祈りを聞き、あらゆる人の悲しみと失望を味わい、わたしたちが父母や姉妹や友や隣人に対してどのような扱いをするかと注意しておられる。神はわたしたちの必要に関心を寄せられる。そして神の愛とあわれみと恵みとは、わたしたちの必要を満たすためにたえず流れ出ている。

しかし、あなたがたが神を父と呼ぶならば、あなたがたは、自分が神の子であることを認め、神の知恵に導かれ、すべてのことにおいて服従することを承認したのである。それは神の愛が変わらないものであることを悟ったからである。あなたがたは、自分の人生に対する神のご計画を受け入れる。神の子として、あなたがたは、神の名誉、神のご性格、神の家族、神の働きをあなたの最高の関心の対象とするのである。父なる神および神の家族のすべての者とあなたがたとの関係を認め尊ぶことはあなたがたの喜びとなってくる。神の栄光となり、神の家族の幸福に役立つことならば、取るに足りない小さな行為であっても喜んでするようになるのである。

「天にいます」。キリストが「われらの父」として仰ぐように命じておられるかたは「天にいらせられる。神はみこころにかなうすべての事を行われる。」神のご配慮のうちに、わたしたちは、「わたしが恐れるときは、あなたに寄り頼みます」と言ってやすらかにいこうことができる。（詩篇 115:3; 56:3）。（祝福の山 130～132）

4 章 安息日(後編)

安息日遵守と矛盾しないこと

キリストは安息日に教会の集会に出席され(ルカ 4:16)、この日に善を行うことは律法にかなうことであることを模範によって教えてくださいました(マタイ 12:9-13; マルコ 3:1-5)。

キリストは真の医事伝道者であられました。このお方は多くの人々を安息日にお癒しになりました。癒しと福祉伝道に関連して、このお方は次のように述べられました、「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない」(マルコ 2:27)。

ですから、安息日の目的と調和している憐れみの働きはみなゆるされています(マタイ 25:35, 36)。

「医者は自己否定と自己犠牲の精神を培う必要がある。聖なる安息日の時間でさえ、苦しむ人類の救済のために捧げる必要があるかもしれない。しかし、そのような労働の賃金は、主の金庫に入れられ、医療技術を必要としても、その支払いができない価値ある貧困者のために用いられるべきである」(医事伝道 216)

「しばしば医者は安息日に病人に奉仕するために呼び出され、休息や礼拝の時間をとることが不可能である。救い主はご自分の模範によってこの日に苦しみを和らげるのは正しいことを示された。しかし医者や看護人は不要な仕事をすべきではない。通常の治療や待てる手術は翌日まで延ばすべきである。患者は医者に休息のための一日がなくてはならないことを知るべきである」(同上 214)

「忠実な医者は、どれほど神の民の同情と祈りを必要としていることであろう。この方面における彼の権利は、最も献身している牧師や伝道者に劣るものではない。彼はしばしば必要な休息や睡眠、また安息日の宗教的な特権さえも奪われるために、二倍の恵み、日ごとの新鮮な供給を必要としている。さもなければ、彼は神を手放してしまい、他の召しを受けている人々よりも霊的な闇に深く沈み

込む危険がある。それでいながら、彼はしばしば不当な非難を受けて、一人取り残され、誤解され、友人に裏切られたことを感じながら、サタンの最も激しい誘惑の対象となるのである」(教会への証 5 巻 446)

「病人や苦しんでいる者はいつでも世話しなければならないので、必要とあわれみの行為は安息日にもゆるされるが、不必要な働きは厳格にこれを避けなければならない」(人類のあけぼの上巻 358)

安息日遵守と相容れないこと

食事の準備、料理、焼くこと(出エジプト記 16:23)。

荷を運ぶこと、またあらゆる形態の商売など、売買や運搬(ネヘミヤ 13:15-22)。

自分自身の楽しみをなし、安息日にふさわしくない会話にふけること(イザヤ 58:13)。

安息日の間に神の時間を犯すこと。

「安息日は……神の時間であって、わたしたちのものではない。わたしたちがそれを犯すとき、神から盗んでいるのである。……神はわたしたちに自分の働きをなすべき六日間をそっくり与えてくださった。そしてご自分のためにはただ一日だけを取っておかれたのである。これはわたしたちにとって祝福の日ーわたしたちがあらゆる世の事柄をわきへおき、自分たちの思想を神と天に集中させるべき日ーとなるべきである」(天国で 152)

繕い、拭いたり掃いたりすること、洗濯、靴磨き、世俗の出版物を読むこと、またその類は、安息日の活動ではない。

全般的な勧告

安息日の両端は注意深く守られるべきである(教会への証 6 巻 356)。

家族や兄弟間の相違はみな、安息日が始まる前に取り除かれるべきである(同上 356)。

告白が、神に対してまた互に対してなされるべきである(教会への証 8 巻 105)。

安息日が始まる前に、家庭のメンバーがみな、神の御言葉を読み、祈りと歌

を通してこのお方に礼拝するために家族の祭壇に集まるべきである。

子供たちは、特に安息日に、家庭礼拝に参加すべきである(教会への証 6 卷 357)。

長い祈りや礼拝は避けるべきである(同上 357)。

すべての人が神の家で礼拝と安息日学校に出席すべきであり、そこで彼らは積極的な参加者となることができる(同上 367; 家庭の教育 578)。

すべての人は安息日の集会を興味深いものとする役割がある(教会への証 6 卷 362)。

安息日に料理は許されていないが、冷たい食物を食する必要はない(家庭の教育 579)。

「ごちそうだと思われているもの、家族が毎日食べないものを出しなさい」(家庭の教育 579)。

自然の中に神のみ手を見るために、戸外に出る計画を立てなさい(家庭の教育 580, 581)。

聖書や預言の霊など本を読む時間をとる(同上 579)。

あなたの思想や言葉を守り、あなたの瞑想と会話を霊的な主題に向けなさい(福音宣伝者(1890 年) 208)。

病人を見舞ったり、聖書研究を施すことは、真の安息日遵守の精神と完全に調和していることを覚えていなさい。

「完全に真理に改心していない人々は、しばしば自分たちの思いが自由に世の仕事に走ることを許し、安息日に身体的な労苦からは休んでいるかもしれないが、彼らの舌は自分たちの思いの中にあることを語るので、これらの言葉は家畜や農作物、損失や利益に関することである。これらはみな安息日を破ることである。もし思いが世俗の事柄に走っているならば、舌はそれを表す。なぜなら、心からあふれることを口が語るからである」(教会への証 2 卷 703)。

「わたしたちは安息日ごとに、過ぐる一週間に霊的進展があったか損失があったかを調べるために、自分の魂と精算すべきである」(同上 6 卷 356)。

「わたしたちは週の間、この世の事に夢中になりすぎたり、この世の利益のために精力を消耗しすぎたりして、安息日には神への礼拝に捧げるエネルギーもないようであってはならない。神の聖日に神を礼拝するにふさわしくない状態に自分をおくことは、主から盗むことである。それは同時に自分自身も恵みを失ってい

ることになる。なぜなら、わたしたちは、他のクリスチャンたちの知恵と経験から力を得ると共に、あたたかい交わりの光を必要としているからである」(家庭の教育 577)。

「多くの人々は安息日の礼拝のために集まる際、どのような装いであるべきかについて指導を必要としている。彼らは平日に着ているいつもの服を着て、神のみ前に出るべきではない。すべての人は神の家の礼拝に出席するときに着るべき、特別な安息日のスーツを持っているべきである。わたしたちは世の流行に順応すべきではないが、自分たちの外面的な装いに関して無関心であるべきではない。飾りはなくても小ざつぱりと整えられているべきである。神の子らは内外が純潔であるべきである」(教会への証 6 巻 355)。

神の家で寝ている？

「だれも礼拝の場所に昼寝をしに来てはならない。神の家で寝るようなことはあるべきでない。あなたはこの世の仕事に携わっているときは眠りに落ちることがないが、それはあなたが自分の仕事に関心を持っているからである。わたしたちは永遠の利益に関わる奉仕が、この世の生活の事柄よりも低い水準に置かれることを許すのであろうか」(同上 361)。

安息日のための食事の用意についての提言

「わたしたちは安息日に平日よりもふんだんに、あるいは種類豊富な食べ物を用意すべきではない。その代わりに、霊的な事柄を理解するために頭脳がはっきりと活力に満ちていられるように、食事はもっと単純で、少なく食すべきである。過食は頭脳を曇らせる。もっとも貴重なみ言葉を聞くかもしれないが、正しく理解できない。なぜなら、思いが不適切な食事によって混乱させられるからである。安息日に食べ過ぎることによって、多くの人々は自分が考えるよりも神を辱めてきた」(同上 357)。

安息日に旅行をする

「もしわたしたちが従順な者に約束されている祝福を願うならば、安息日をもっと厳密に守らなければならない。わたしはこの日に旅行をすることが避けられる時に、しばしばそうしているのではないかと懸念する。主が安息日順守に関し

て与えてこられた光に調和して、わたしたちはこの日に船や車で旅行することについてもっと注意深くなるべきである。これらの事柄に関して、わたしたちは子供や青年たちの前に正しい模範を残すべきである。わたしたちの助けを必要としている諸教会に手を差し伸べたり、神が聞かせたいと望んでおられるメッセージを彼らに伝えたりするために、安息日に旅行をすることが必要なときもあるかもしれない。しかし、できるかぎり、わたしたちは他の日にチケットを手配したり、すべての必要な調整を行ったりすべきである。旅行を始める際には、あらゆる努力を払って安息日に目的地へ到着することを避ける計画を立てるべきである」(同上 359, 360)。

安息日に遊んでいる子ども？

「ご両親がた、安息日には何よりもまず子どもたちに注意を払いなさい。屋内屋外にかかわらず、子どもたちに遊びによって神の聖日を汚させてはならない。子どもたちにそうさせることによって、あなたがた自身も同じように安息日を破ることになる。子どもたちにほつつき回らせたり、安息日に遊びをさせたりするとき、神はあなたがたを安息日を破る者とみなされるのである」(家庭の教育 581)

世の学校へ出席し、安息日に試験を受けること

「わたしたちの民のある人々は安息日に自分の子供を学校へ送ってきた。彼らはそうするように強制されてはいなかったが、学校側では六日間出席しないかぎり、子供たちを受け入れることに反対したのである。これらの学校のうち中には、生徒たちは通常の科目を教えられるばかりでなく、様々な種類の仕事をするところもある。そしてここに自称律法遵守者の子供たちが安息日に送られてきたのである。ある親は安息日に良いことをするのは律法にかなったことであるというキリストのみ言葉を引用することによって、自分たちの行動を正当化しようとする。しかし同じ論理を用いて、人は自分の子供たちのために糧を稼がなければならないからという理由で安息日に働いてもよいことになる。そうなれば、そこには何がなすべきことで何がなすべきでないことを示す制限も境界線もないのである。……

わたしたちの兄弟は自分の子供を第四条に従うことのできない場所へ置きながら、神の是認を期待することはできない。彼らは子供たちが第七日目に学校へ

出席することを免除されるように学校側と調整をつける努力をすべきである。もしそれができないときは、いかなる代価を払っても神の戒めに従うという彼らの義務ははっきりしている。中央ヨーロッパのある場所では、自分の子供を安息日に学校へ送らないからといって罰金を科せられ、投獄されてきた。ある場所では兄弟が自分の信仰を率直に述べた後、裁判所から役人が戸口に訪れ、子供を学校へ行かせるよう強制した。親は通常の教科書の代わりに、子供たちに聖書を持たせ、彼らの時間は聖書を研究するために用いられたのである。しかし、できるかぎりどこでも、わたしたちの民は自分自身の学校を設立すべきである。彼らがそうできない場合は、できるだけすみやかに神の戒めを自由を守ることできる場所へ移るべきである。

ある人々は、主はご自分のご要求についてそれほど厳密ではないと主張する。大変な損失を払ってまで安息日を厳密に守ったり、自らの身を国の法律と対立するようなところへおくことは自分たちの義務ではないというのである。しかし、これこそ、人の要求にまさって神の律法を尊ぶかどうかテストの訪れるところなのである。これこそ、自分の忠誠を証明すべきところである。神が各時代においてご自分の民を扱われる歴史は、神が厳密な従順を要求しておられることを示している。……

「もし自分の子供たちが世の教育を受けることを親が許し、安息日を通常の日としたら、神の印が子供たちに押されることはできない。彼らは世と共に滅ぼされることになる。そして彼らの血は親についていないであろうか。しかし、もしわたしたちが自分の子供に忠実に神の戒めを教え、彼らを親の権威の下へ置き、それから信仰と祈りによって彼らを神にお委ねするならば、このお方はわたしたちの努力と共に働いて下さる。なぜなら、このお方はそれを約束して下さったからである。そして全地に災難があふれるとき、彼らはわたしたちと共に主の隠れ家の奥の間に隠されることができる」(SDA ミッションのヒストリカル・スケッチ 216, 217)。

「こうした特別な指示がありながら、父親はどうして自分の子供たちが安息日に、あるいは安息日のある部分に、通常の平日と同じように学校へ出席することに同意できるであろうか。ここに掲げるべき十字架がある。ここに忠実な者と不忠実な者の間に引かれる分離の線がある。これこそ自分自身が犠牲を払うことになっても神の律法を無効にはしない民がいるというしるしである。ここでわたしたちは世に対して世の創造主と統治者であられるお方への自分の忠誠について証

を担うのである。ここで安息日の真実性について世に対する証が担われるべきである」(原稿別ス5巻79)。

ユダヤの年ごとの聖日

主の週ごとの安息日は、過去、すなわち神の創造のみわざを指し示している一方で、ユダヤの年ごとの七つの聖日もまた安息日と呼ばれていますが、これらは将来、すなわちキリストの贖いのみわざを指していました。神は次のように言われたときにこれらの二つをはっきりと区別されました。「これはあなたがたの全き休みの安息日である。……その夕から次の夕まで(あなたがたの)安息を守らなければならない……このほかに主の安息日があり」(レビ記 23:32, 38)。ローマ 14:5 やガラテヤ 4:10 またコロサイ 2:16, 17 では、内容から、パウロが主の週ごとの安息日ではなく(「わたしの安息日」)、ユダヤ人の年ごとの安息日のことを言及している(「あなたがたの安息日」)ことは明らかなです。

われらの主よ、きたりませ

Maranatha



5月「キリスト再臨のしるし」

神はご自分の民を導かれる

「あなたが水の中を過ぎるとき、わたしはあなたと共にいる。川の中を過ぎるとき、水はあなたの上にあふれることがない。あなたが火の中を行くとき、焼かれることもなく、炎もあなたに燃えつくことがない。」（イザヤ 43:2）

神は地上に一つの教会を持っておられる。それは神が選ばれた民であり、神の戒めを守る者たちである。このお方が導いておられるのは、ここに一人、あそこに一人といった散在する横枝ではなく、一つの民である。

働きが成功しないのではないかと疑ったり、恐れしたりする必要はない。神がみ働きの先頭におられ、万事を秩序のうちに整えてくださる。もし働きの先頭で物事の調整が必要であれば、神がその対応をしてくださり、すべての誤りを正すために働いてくださる。神がご自分の民を乗せた崇高な船を港へ安全に連れていくてくださるという信仰を持つてうではないか。

何年前にも、わたしがメイン州のポートランドからボストンへ船旅をしたとき、嵐がわたしたちを襲い、大波がわたしたちを翻弄（ほんろう）した。シャンデリアは落ち、荷物は船室の端から端までボールのように転がった。乗客はおびえて、死を予期して悲鳴をあげていた。

しばらくして操縦士が甲板にきた。船長は水先案内人が舵をとったとき、彼のそばに立って、船が進んでいる方向について懸念を述べた。「あなたが舵をとりますか」と彼は船長に尋ねた。船長はそうする用意がなかった。なぜなら、経験が不足していることを知っていたからである。それから、数人の乗客がじっとしていられなくなり、操縦士が船を岩に乗り上げてしまうのではないかと心配だと言い出した。「あなたが舵をとりますか」と操縦士が尋ねたが、彼らは自分たちが操縦できないことを知っていた。

あなたは働きが危機に直面していると思うとき、「主よ舵をとってください。この難局を通りぬけさせ、わたしたちを港へ安全に導いてください」と祈りなさい。わたしたちには主がわたしたちを勝利のうちに導いてくださることを信じる理由がないであらうか。……

あなたは有限な知力で、神のみ摂理の働きをすべて理解することはできない。神のみ働きは神ご自身にさせていただこうではないか。（信仰によってわたしは生きる 282）

サタンは努力を倍加する

「主の使は主を恐れる者のまわりに陣をしいて彼らを助けられる。」(詩篇 34:7)

もしわれわれが、サタン以上の贖い主の力のうちに、かくれがと救いを得ていないならば、サタンとその軍勢の力と悪意とに恐怖を抱くのは当然であろう。われわれは、錠をかけて家の戸締まりをよくし、生命と財産を悪人の手から守ろうと気をつける。しかしわれわれは、常にわれわれに近づこうとしている悪天使のことは、ほとんど考えない。われわれはその攻撃に対して、自分では防御する方法がないのである。もし許されるならば、彼らはわれわれの心を狂わせ、体に変調を起こさせて苦しみ、財産を破壊し生命を奪うのである。彼らの唯一の喜びは、悲惨と破壊である。神の要求を拒み、サタンの誘惑に負ける者の状態は、実に恐ろしく、神もついには彼らを、悪霊の支配にわたされるようなことになるのである。しかし、キリストに従う者は、常に彼の保護のもとにあつて安全である。力強い天使が天から送られて彼らを守る。悪人たちは、神が神の民の回りに配置された警護を破ることができないのである。

約六千年近くも続けられてきたキリストとサタンとの間の大争闘は、まもなく終わる。そこでサタンは、キリストが人間のためにしておられる働きを妨げる努力を倍加し、魂を彼のわなの中に捕えておこうとする。救い主の仲保のお働きが終わり、もはや罪のための犠牲がなくなってしまうその時まで、人々を悔い改めさせず、暗黒の中に閉じこめておくことが、サタンのめざすところである。

サタンの権力に抵抗しようとする特別の努力もなく、教会と世の中に無関心の状態がみなぎっていれば、サタンは別に気にとめないものである。というのは、彼は自分がその意のままに捕えている者たちを失う危険がないからである。ところが、人の心が永遠の事柄に向けられ、「わたしは、救われるために、何をすべきでしようか」と魂が叫ぶとき、サタンはキリストの力に抵抗し、聖霊の感化を妨害しようと動き始める。……同じ目的をもってサタンは、人々が神の礼拝のために集まるときにその場に現われるのである。目にこそ見えないが、サタンは礼拝者たちの心を支配するため、いっしょうけんめいに働いている。(各時代の争闘下巻 258-261)

わたしたちの目の前にある重大な争闘

「人間に従うよりは、神に従うべきである。」(使徒行伝 5:29)

大きな危機が神の民を待ち受けている。危機は世界を待ち受けている。各時代を通じて最も重大な争闘がまさにわたしたちの目の前にある。……日曜遵守を強制する問題が国家的な関心と重要性を占める問題の一つとなっている。わたしたちはこの働きの結果がどうなるかをよく知っている。しかし、わたしたちはこの問題に対して準備ができているであろうか。わたしたちは人々に対し、彼らの目の前にある危険を警告するという神がお委ねになった義務を忠実に果たしているであろうか。……

聖書の安息日の要求と、日曜制度の基礎をなしている偽りの土台を一度も理解したことのない人々が多くいる。宗教的な法律制定の動きは何であつても、実に長年の間、良心の自由に敵対して戦ってきた法王制度への譲歩の行為である。日曜遵守はその存在をクリスチャン機関と呼ばれている「不法の者」に負っている。そしてその施行は、事実上ローマ主義の隅のかしら石そのものである諸原則を認めることである。わたしたちの国家が日曜法令を制定することによって自国の統治の諸原則を捨てるとき、プロテスタント主義はこの行為において、法王制と手を結ぶことになる。そして、このことは一躍実際上の独裁制になる機会を長い間熱望していた絶対権力に、再び生命を与えることにほかならない。……

もし法王制やあるいはその諸原則が、再び法律として制定され力を持つようになれば、一般的な誤謬を尊重して良心や真理を犠牲にしようとする人々に対して、再び迫害の火が点じられることになる。この悪がまさに現実のものになろうとしている。

神がわたしたちの目の前にある危険を示す光を与えておられるときに、わたしたちがこの光を人々の前にもたすため力の限りをつくすのを怠るなら、どうやって御前に汚れなく立つことができるだろうか。わたしたちは人々が警告を受けず、この重大な結果に直面するのをそのままにして満足していられるだろうか。……

地上の支配者の法律が、宇宙の最高支配者であられるお方の律法に敵対して持ち出されるとき、神の忠実な臣民はこのお方に忠誠をつくすのである。(教会への証 5 巻 711-713)

聖書に無理な解釈をほどこす

「無学で心の定まらない者たちは、……聖書に……無理な解釈をほどこして、自分の滅亡を招いている。」(ペテロ第二 3:16)

人が何を信じて、それはさほど重要なことではないという態度は、サタンが最も成功を収めている欺瞞の一つである。人が真理を愛して、受け入れるとき、真理はそれを受け入れた人の魂を清めることをサタンは知っている。そのために、彼は絶えず偽教理、作り話、別の福音などを真理の代わりにしようとしている。

……

聖書についてあいまいな、変わった解釈をしたり、またキリスト教界において、宗教的信仰に関して多くの矛盾した説があったりすることは、人心を混乱させて真理を見分けられないようにするための大敵サタンのしわざである。キリスト教会内にある不和、分裂は、自分の気に入った理論を裏づけるために聖書を歪曲するという一般的な風習のせいであることが非常に多い。神のみこころを知ろうとして謙遜に注意深く聖書を研究しないで、何か変わった独創的なものを発見しようとする者が多い。

誤った教理や非キリスト教的習慣を支持するために、聖書の前後関係を考えずに一節の半分だけを引き離して引用する人々がいるが、その残りの半分を見れば、全く反対の意味になることもある。彼らは、自分の肉の欲をほしいままにするために、へびのような狡猾さで、曲解された無関係ないくつかの聖句のかげに、自分の立場を守るのである。このようにして、神のみ言葉を故意に曲解する者が多い。他方、聖書の型や象徴について想像をたくましくする者もある。そのような人々は、聖書が聖書自らの解釈をしているその証言も無視して、思いのままに解釈を下し、自分たちの臆測を聖書の教えであるかのように説くのである。

聖書の研究は、祈りの精神に満たされ、謙遜に教えを聞く精神で行なわれなければ、難解な聖句はもちろん、やさしいところでも、その意味を取り違えて曲解してしまう。……祈りの精神をもって聖書を学ぶすべての者に、神のみ言葉は明らかに示され、真に誠実な者はだれでも、真理の光にすることができる。「光は正しい人のために現れ……る」(詩篇 97:11)。教会員が隠れた宝を捜すように真理を熱心に探究しないならば、どの教会も聖潔に進むことはできない。(各時代の争闘下巻 263-265)

神についての偽りの理論

「なぜなら、彼らは神を知っていながら、神としてあがめず感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからである。」（ローマ 1:21）

神は自然界全体に充滿している存在であるという理論はサタンの最も巧妙な策略のひとつである。それは神を誤り伝え、このお方の偉大さと威厳を辱める。

汎神論的な学説は、神の御言に支持されていない。このお方の真理の光は、これらの理論が魂を滅ぼす働きを示している。暗闇がその成分であり、肉の欲がその領域である。この理論は生来の心を喜ばせ、心の傾向を許してしまう。それらを受け入れる結果は、神からの分離である。……

人の心から悪の支配力を壊すことのできる力の一つしかない。そしてそれはイエス・キリストの中にある神の力である。十字架にかかられたお方の血を通してのみ、罪からの清めがある。このお方の恵みだけが、わたしたちに自分の墮落した性質の傾向に抵抗し、打ち勝つのを可能にしてくださるのである。神に関する心霊的な理論は、この力を無効にしてしまう。もし神が自然界全体に充滿している霊的存在であるなら、神は全ての人間の中に住んでおられることになる。そうすると、霊的聖潔に到達するためには、人はただ自分のうちに力を発展させれば良いことになる。

これらの理論が、彼らの言う理論的な結論へと導かれるなら、それはクリスチャン制度全体を一掃してしまう。彼らは贖いの必要を認めず、自分自身を救い主とする。神についてのこれらの理論は、神の御言を無効にし、この理論を受け入れる者については聖書全体を作り話とみなすよう導かれる危険が多分にある。彼らは徳を悪徳よりも良いものと認めるかもしれない。しかし、神がその主権者の位置から外されることにより、彼らは人間の力に依存するのであるが、それは神がおられなくては何の価値もないのである。助けを受けない人間には悪に抵抗したり、勝利するための実際の力はない。魂の防御が打ち破られてしまう。人には罪に対する防壁がなくなる。一度神の御言と御霊の抑制力が拒まれると、人がどれほどの深みまで沈んでいくか、わたしたちには分からないのである。

これらの心霊的な理論を持続ける人々は、確かに自分たちのクリスチャン経験をそこない、神とのつながりを断ち、永遠の命を失ってしまうのである。（伝道 601, 602）

偽りの知識（科学）の危険

「テモテよ、あなたにゆだねられていることを守りなさい。そして俗悪なむだ話と偽りの『知識（科学）』による反対論とを避けなさい。」（テモテ第一 6:20）

ニューハンプシャーに、神に関して偽りの見解を広めて活動している者たちがいた。この人々が自分の見解で真理を無効にし、ある者は自由恋愛主義へと導いているという光がわたしに与えられた。この人々が神に関する思索的な理論を提供することにより、魂を誘惑していることをわたしは示された。……

とりわけ彼らは、一度聖化された者は罪を犯すことができないという考えを持ち、これを福音の糧として提供していた。彼らの偽りの理論は、欺瞞的な感化力という重荷と共に、彼ら自身とまた他の人々に大きな害をもたらしていた。彼らはこれらの美しく装われた理論の悪を認めることのできない人々に対して、心霊的な力を及ぼしていた。大きな害悪がすでにおきていた。すべての者が聖なるものだという教理は、聖化された者の愛情は決して正道からそれる危険はないと信じるに至らせた。この信仰の結果は、心の悪い願望の成就であり、きよめられていると公言してはいたが、思いや行動の純潔からはほど遠いものであった。

これはわたしが、人格を持たない神が自然界に放散しているという教理と、聖なる肉体という教理を提示していた人々を譴責するように召された事例のほんの一つである。

将来、真理は人間の教えによって偽造されるであろう。欺瞞的な理論が、安全な教理として提供されるであろう。偽りの知識（科学）は、サタンが天の宮廷で用いた手段の一つであり、今日もサタンに用いられている。……

神のために働いている人々に、偽物を本物の代わりに受け入れないようにとわたしは懇願する。わたしたちにはこの上なく尊い真理に満ちた聖書全体がある。わたしたちに推測や誤った刺激は必要ない。キリストのみ教えの中で提示されている通りの、真理という黄金の香炉の中に、魂に罪を悟らせ、改心させるものがある。キリストの単純さのうちに、キリストが宣言するためにこの世界へ来られた真理を提示しなさい。そうすればあなたのメッセージの力はおのずと感じられるであろう。聖書に基づかない理論や試金石を提示してはならない。（伝道 600, 601）

サタンの欺瞞の傑作

「隠れた事はわれわれの神、主に属するものである。しかし表わされたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属し、われわれにこの律法のすべての言葉を行わせるのである。」(申命記 29:29)

物質的および霊的な面における人間の知識は、部分的で、不完全なものである。だから多くの者は、その科学的見解を、聖書に述べられていることと一致させることができないのである。単なる学説や推測を科学的事実として受け入れる者が多い。そして彼らは、神のみ言葉が、いわゆる「偽りの『知識 (科学)』」によってためされなければならないと考える(テモテ第一 6:20)。創造主とそのみ業は、彼らの理解を越えたものである。ところが彼らはそれを自然の法則によって説明できないために、聖書の歴史は信頼できないと考える。旧新約聖書の記録が信頼に値するものであることを疑う者は、さらに一歩進んで、神の存在に関して疑惑を抱き、無限の力を自然界のせいにしてしまう。彼らは錨を捨ててしまった以上、無信仰という暗礁にのり上げてしまうよりほかはないのである。

このようにして、信仰から離れ、悪魔に欺かれる者が多い。……人間の哲学は、永遠に啓示されることのない神秘を探り出して説明しようと試みてきた。もし人々が、神がご自身とその御目的に関して人間にあらわされたことだけを探り、理解するならば、彼らは主の栄光と威光と権力とを知るとともに、自分自身の小さなことを認め、自分たちと自分たちの子らのために啓示されたことに満足するであろうに。

神が啓示しておられないことや、われわれが理解するよう計画してはおられないことを、人が探り、推測をたくましくするようにすることは、サタンの欺瞞中の傑作である。ルシファーが天上の地位を失ったのも、こうしたことからであった。彼は、神の御目的の秘密がすべて自分に示されなかったことに不満を抱き、自分に与えられていた高い地位の職務に関して示されたことなどは全く顧みなかった。彼は、部下の天使たちにも同じ不満の念を抱かせて、墮落させてしまった。今度は、人の心にも同じ精神を吹き込んで、神の直接のご命令を無視させようとするのである。(各時代の争闘下巻 265-267)

時期や場合

「彼らに言われた、『時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。』」（使徒行伝 1:7）

神はご自分の権威によって、時期や場合を定めておられる。それでは神はなぜわたしたちにこの知識を与えてはおられないのだろうか。なぜならわたしたちは、もし神が教えて下さっても、その知識を正しく用いないからである。来るべき大いなる日に民を立たせる準備をさせておられる神のみ働きを大幅に遅らせるこの事態がこの知識からわたしたちの間で起こってくるからである。……イエスは弟子たちに「目をさましていなさい」と言われたが、それは明確に限定された時期ではなかった。キリストに従う者たちは、自分たちの指揮官であられるお方のご命令を聞こうと耳を澄ませているべきである。彼らは主の来臨の時に近づいているので、目をさまして待ち、祈り、働くべきである。しかしだれもその時がちょうどいつ来るかを預言することはできない。「その日その時は誰も知らない」からである。キリストが一年、二年、あるいは五年後に来られると言うことはできないし、またその日は十年も二十年もやってこないといって、主の来臨を遅らせるべきでもない。……わたしたちは聖霊の降下について明確に限定された時期を知るべきではない。（伝道 75）

古い都エルサレムへ行くことが自分たちの義務であると考え、主が来られる前に、そこでなすべき働きがあると考えて、大いなる誤りに陥っている人々を、わたしは示された（付録参照）。このような考えは、第三天使の使命のもとにあつて主のためになすべき現在の働きから人々の心と興味をそらすように計画されたものである。まだエルサレムに行くべきであると思っている人々の心は、エルサレムのことを考えている。そして彼らの財産は、自分たちや他の人々をそこへ送るためのものになっており、現代の真理の働きのためにささげられてはいない。わたしは、このような任務は真の益をもたらさず、ごく少数のユダヤ人に、キリストの再臨どころか、その初臨のことを信じさせるためにも、長い期間がかかることを、わたしは見た。（初代文集 156, 157）

「ノアの時代にあったように」

「そして、ノアの時にあったように、人の子の時にも同様なことが起こるであろう。」
(ルカ 17:26)

恐ろしい事態が起こることをわたしは示された。あわれみの天使は自分の翼を折りたたんでいるが、飛び立つ用意はできている。……神の律法は無効にされている。わたしたちは混乱と紛糾を、欠乏と飢饉を、そして地震と洪水を見たり、聞いたりする。人々は恐ろしい乱暴を行い、理由のない激情に支配される。神の憤りは地の住民の上にある。この住民はソドムとゴモラの住民と同じく急速に墮落しているのである。既に、火と洪水とが貧しいものを圧迫して、利己的に集めた富と、また何千という人命を減ぼしている。主はまもなくご自分の働きを短縮し、罪を終わらせられる。ああ、わたしの目の前に現れたこの最後の時代に行われた不正行為の数々の光景が、神の民であると公言している人々の心に深い印象を与えると良いのだが。

ノアの時にあったように、人の子が現れるときにも同様なことが起こるであろう。主は地上からご自分の抑制を取り除いておられる。だからまもなく死と滅亡が起こり、犯罪が増加し、貧しいものに対し得意になっていた金持ちに対して、残酷な、また悪意ある働きがなされるであろう。神の守りのない者は、どこにも安全な場所や境遇を見い出すことはない。悪の手下となっているものたちは、人を殺したり、傷つけたりするために最高の力を発揮する機械類を操作するための訓練を受け、自分たちの発明能力を用いている。……

兄弟姉妹がた……わたしはあなたがたに訴える。……多くの者の生活があまりにも傷つきやすく、気むずかしい……彼らは自分をクリスチャンであると考え。しかし、彼らは実際のクリスチャン生活が何を現すのかを知らない。クリスチャンであるというのは、何を意味しているのでしょうか。それはキリストに似た者であるということの意味している。……神と調和して働くことによって、神と協力しなさい。魂の宮から、偶像と思われるものを全て追い出さない。今は神の時であり、神の時はあなたの時である。信仰の良き戦いを戦って、不信仰なことを思ったり、語ったりするのを拒否しなさい。世は最後の警告のメッセージを聞くべきである。(教会への証 8 卷 49-53)

まもなく来る大いなる恐るべきこと

「わたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見られている。」(コリント第一 4:9
基本英語による聖書)

世界は劇場である。その住民である俳優は最後の大きなドラマで各自の役を演じる用意をしている。自分の利己的な目的を達成するために同盟を結ぶとき以外には、大群衆である人類に一致はない。神はじっと見ておられる。反抗的な民に対する神の御目的は成就するであろう。神はしばらくの間、混乱や騒乱を起こすものが勢力を振るうのを許しておられるが、この世界が人の手に渡されたことはなかった。下からの力は、ドラマの中で最後の大きな場면을仕上げようと働いている。すなわちサタンがキリストのような姿で現れ、密かな組織に連なっている者たちのうちにできる限り多くの不義の惑わしを使って働くのである。同盟のために情熱を傾けているものは、敵の計画を苦心して成就しているのである。原因には結果が伴う。

不法はもうほとんど限界に達している。混乱が世に満ち、大いなる恐るべきことがまもなく人類の上にと下ろうとしている。終わりは非常に近い。真理を知っているわたしたちは、まもなく圧倒的な不意打ちのように世界を破壊する事件に対して準備をしているべきである。……

わたしたちは民として眠っているのでしょうか。ああ、わたしたちの仲間で、今はまだ主の来臨のために備えができていなくて、主の家族の一員になるには不適当な若い男女が、時のしるしさえ見分けることができるなら、彼らのうちに何という変化が見られることであろう! 主イエスは、自制心のある働き人が、ご自分のみ足の跡を踏み従い、主のために歩み、働いて、十字架を負い、主が導かれる道へと従うようにと、召しておられる。

多くの者は主にわずかの奉仕をすることで、すぐに満足してしまう。彼らのキリスト教的信仰は弱々しい。キリストは罪人にご自身を与えてくださった。わたしたちが罪のうちに滅んでゆく人々を見るとき、わたしたちは魂の救いをどれほど切望すべきであろうか。これらの魂は無限の価で買われたものなのである。カルバリーの十字架での神のみ子の死が、これらの魂の価値の基準である。彼らは日毎に自分たちが永遠の命を持つのか、それとも永遠の死をつかむのかを決定している。(教会への証 8 卷 27-29)

青年と麻薬症候群

「若い者よ、あなたの若い時に楽しめ。あなたの若い日にあなたの心を喜ばせよ。あなたの心の道に歩み、あなたの目の見るところに歩め。ただし、そのすべての事のために、神はあなたをさばかれることを知れ。」(伝道の書 11:9)

サタンは宇宙で最初の反逆者であった。そして天から追放されて以来、彼は人類家族全員を、自分自身がそうであるように、神に対する背教者にしようとしている。彼は人間を滅ぼすために計画を立て、不道德な食欲の放縦を通して、人を神の戒めに違反させるように導いた。サタンはアダムとエバが禁断の木の実を共に食べるよう誘惑した。そして、彼らの墮落とエデンの園からの追放という目的を達した。どれほど多くの者が、「もしわたしがアダムの立場であるなら、そんな簡単な、小さな試みで違反を犯すようなことは決してしないのに」と言うであろう。しかしこのような自慢をするあなたに試練のもとで原則に忠誠をつくし、あなたの決意の強さを示す重大な機会がある。……神はあなたの生活に罪をご覧にならないだろうか。……

サタンはあらゆる方法で、青少年を滅亡の道へと誘い込もうとしている。そして、もし一度でも彼らの足をその道に踏み込ませることができれば、サタンは彼らを墮落した人生へとせきたて、次々と放蕩に身を持ち崩すよう導く。自分の獲物が良心の敏感さを失い、自分の感覚としては神への恐れを全くなくしてしまうまでサタンは導くのである。彼らは自制心をますます働かせなくなる。彼らはワインやアルコール、またタバコやアヘンを常用するようになり、少しずつ品性を落としてゆく。彼らは食欲の奴隷となる。自分たちが、かつては尊重した勧告を彼らは軽蔑するようになる。彼らは肩をそびやかして闊歩(かつぽ)し、退廃の奴隷でありながら、自由を誇っている。彼らは、自分が利己主義や墮落した食欲、また不道德の奴隷となっていることを自由と履き違えているのである。……

サタンは人類を自分の家来にしようとして決心している。しかしキリストは人が敵から贖われ、神の道徳のみ姿が墮落した人類に回復されるようにと無限の価を払ってくださった。……墮落した人間はキリストを通して御父に近づくことができ、また十字架に掛かり、よみがえられた救い主の功績を通して勝利者となるための恵みを得ることができるのである。(節制 273, 274)

異邦人の力の外面的誇示

「人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め……の時が来る。」(テモテ第二4:3, 4)

人々は自分が選んだ旗の下に急いで集まり、自分たちの指導者の動静を絶えず見つめて待っている。わたしたちの主の来臨を見張り、待ち、そのために働いている者がいる。一方では最初の大背教者の統率の下にある隊列に急いで整列している者もある。彼らは人間の中に神を捜し求め、サタンは彼らが捜し求めるものの化身となっている。大多数の者は真理を拒むことにより惑わされているので、偽者を受け入れてしまう。人間が神として歓呼して迎えられている。(信仰によってわたしは生きる 322)

わたしたちが時の終わりに近づくとき、異邦人の力の外面的な誇示がますます大きくなる。異邦人の神々は自分たちの目ざましい力を表し、世界中の都市で自らを現す。そしてこの描写はすでに成就始めている。主イエスは種々の比喩的表現によって、ヨハネに、神の民を迫害するために区別されている者たちのよこしまな性格や人をひきつける影響力を示された。全ての者はこの地上歴史の終結の時に大規模に現れる不法の秘密を暴くために注意深い知恵が必要である。……わたしたちが生きている、まさにこの時代に、主はご自分の民を召して伝えるべき使命を民にお与えになったのである。日曜休業令を他の区別した権力とする不法の者の不正をあばくために、主はご自分の民を召されたのである。この不法の者は、時と律法を変えようと望み、唯一の真の安息日、すなわち創造のときに定められた安息日を守ることによって主に栄光を帰そうと堅く立つ神の民を圧迫しようと企てている。……

終わりの時の危機がわたしたちに臨もうとしている。だからわたしたちは自分に与えられている働きの中で危険に陥っている人々にそのことを警告すべきである。預言が示している厳粛な光景に触れないままにしておいてはいけない。もしわたしたちの仲間が半分でも目覚めて、黙示録の中で描写されている出来事の近いことに気づいていたなら、改革がわたしたちの教会に起こり、もっと多くの者がこのメッセージを信じたであろうに。わたしたちには浪費する時間はない。報告しなければならない魂として、彼らを見守るようにと神はわたしたちに呼びかけておられる。(牧師への証 117, 118)

都市の騒動

「悪人と詐欺師とは人を惑わし人に惑わされて、悪から悪へと落ちていく。」(テモテ第二 3:13)

神の民が都会に密集して暮らし、共同住宅やテラスハウスに群れ集まるのは神のご目的ではなかった。初めに神はわたしたちの両親を自然の美しい光景と魅力的な声に囲まれた園の中におかれた。そしてこれらの光景や声を今日も人が喜ぶようにと神は望んでおられる。(教会への証 7 巻 87)

都市は混乱や暴力、また犯罪で満ちており、これらは地上歴史の終わりまで増加するという光がわたしに与えられている。(同上 84)

わたしたち再臨信徒は、都市から家族を連れ出し、もっと辺ぴな田舎へ行くべき時が来ている。さもないと、多くの青少年や年配の者もわなにかけられ、敵に捕らえられてしまうであろう。(同上 8 巻 101)

「町を出よ、町を出よ！」これは主がわたしに与えてくださっているメッセージである。(エリ・G・初仆のライフ・スッチ 409)

これらの町々に充満する騒動や混乱、また労働組合やストライキによってもたらされる状況はわたしたちの働きに大きな障害となるであろう。人々はある種の組合に属することによってさまざまな職業に従事する者になろうとしている。これは神のご計画ではなく、わたしたちが無思慮に受け入れる別の力の計画である。よこしまな者たちは自分たちを束ねて、燃やされる用意をしているという神のみ言葉が成就しつつある。

わたしたちは世に最後の警告のメッセージを伝えるために、わたしたちに委ねられた能力を今すべて用いるべきである。この働きの中でわたしたちは自分たちの個性を保っているべきである。わたしたちは秘密組織や、労働組合に連なるべきではない。わたしたちは神にあつて自由に立ち、絶えずキリストにたよっているべきである。(教会への証 7 巻 84)

世界の罪深い都市は滅亡というほうきで一掃されるべきである。今、巨大なビルや都市の大きな地区に降りかかっている災難の中で、神は地球全体に起こることをわたしたちに示しておられる。主はわたしたちに、「いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。そのように、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。」と言っておられる(マタイ 24:32, 33)。(教会への証 7 巻 83)

増し加わる偏見

「兄弟たちよ。世があなたがたを憎んでも、驚くには及ばない。わたしたちは、兄弟を愛しているので、死からいのちへ移ってきたことを、知っている。愛さない者は、死のうちにとどまっている。」(ヨハネ 3:13, 14)

キリストにしっかりつながっている者は、人種や階級による偏見を超越する。彼の信仰は永遠の事実をつかむ。真理の聖なる著者であられる方があがめられるべきである。わたしたちの心は、愛によって働き魂を清める信仰で満たされるべきである。良きサマリア人のわざこそ、わたしたちの従うべき模範である。(教会への証 9 巻 209)

真理を信じる者がキリストと非常に堅く結びついて、主と一つになるまでは、主の秩序に従って、人種問題に関するすべての事柄を整えるのは不可能である。わたしたちの教会の白人も有色人種も考え方を改める必要がある。どちらの人種にも道理に合わない者が何人かおり、人種問題が論じられるときに彼らは清められていない品性の改変されていない特徴をあらわす。自説を曲げず、頑固なものには怒りっぽい要素が簡単に呼び起こされる。なぜなら彼らはキリストのくびきを負うことを学んだことがないからである。そのようにして、至上権のために清められていない決意でもって自らうるさく叫ぶのである。(手紙 105、1905 年)

時が経ち、民族の偏見が増すとき、多くの場所で白人の働き人が有色人種のために働くことがほとんど不可能になる。ときにはわたしたちの働きに共鳴しない白人が、わたしたちの教えは教会をばらばらにして、安息日問題をめぐって問題を生じさせるものだとして主張し、わたしたちの働きに反対するために有色人種と結びつく。白人の牧師と有色人種の牧師が偽りの声明を出し、人々の思いの中に、いつでも滅ぼし殺そうとするような敵対心を引き起こすのである。

悪魔の力は有色人種の間に、恵みの最後のメッセージが宣べ伝えられるのを妨げるために彼らの発明の才をすべて使って働いている。サタンは福音伝道者や、牧師にとって、白人と有色人種の間に存在する偏見を無視することが最も難しいものとなるように働いている。

知恵の道に従おうではないか。不注意に対立するのは止めよう。福音のメッセージの宣布をさまたげるようなことは何もしないようにしよう。(教会への証 9 巻 207, 208)

裸に対する強い欲望

「だれでも情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。」
(マタイ 5:28)

多くの青少年は本を読みたがる。彼らは自分が手に入れることのできる本をすべて読む。刺激的な恋愛小説や不純な描写には品性を墮落させる影響力がある。多くの者が小説を熱心に読み、その結果として、彼らの想像力は汚される。車の中で裸の女性の写真が売り物として、頻繁に回覧される。これらの実にいやな写真類は……彫刻を取り扱う人々の家の壁にかかっている。今は墮落が至るところに満ちている時代である。目の欲と汚れた情欲が見ることと、読むことによって刺激されている。心は想像力を通して墮落している。思いはより低級な、より卑しい情欲を呼び起こす光景をじっと見つめるのを楽しむ。汚れた想像力を通して見るこれらの下劣な印象は品行を墮落させ、惑わされ、たぶらかされた者がみだらな情欲に自由な支配権を与えてしまう準備をさせる。それから神のみかたちに造られた者を獣の水準にまでおろす罪と、犯罪が続き、ついには完全な破滅にまで沈み込むのである。不純な思いをほのめかすようなものを読んだり、見たることを避けなさい。道徳的かつ知的能力を養いなさい。物語といえどもたくさん読むことによって、これらの高貴な力を弱めたり、損なったりしてはならない。……

青少年が神のみ言葉を熟読することを喜ぶようになるまでは、彼らが思いの健康状態と正しい宗教の原則を保つのは不可能である。この本、聖書は最も興味深い歴史を含み、キリストを通しての救いの道を指摘する。そして青少年をより高いより良い人生へと導く案内書である。もしも彼らの想像力が架空の人物の刺激的な物語でゆがめられていなければ、聖書は彼らがかつて読んだ本のうちで最も興味深い本であると皆、断言するであろうに。あなたの死ぬべき体を変えて、主のこの上なく栄光に満ちた輝くからだに似た者に形造ってくださるために、主が再び来られることを待ち望んでいるあなたはもっと気高い次元の行動にまで上らなければならないのである。あなたは今までしてきたよりもっと気高い観点から働かなければならない。さもないとあなたは、不死の仕上げの一筆を受ける者とはならないであろう。(教会への証 2 巻 410, 411)

平和であると叫ぶ者

「彼らは互に言う、『さあ、われわれは酒を手に入れ、濃い酒をあびるほど飲もう。あすも、きょうのようであるだろう、すばらしい日だ』と。」(イザヤ 56:12)

悪いしもべは心の中で「わたしの主人は帰りが遅い」と言う。彼はキリストが来られないとは言わない。彼はキリストの再臨という考えを嘲笑したりはしない。しかし自分の心の中で、また態度や言葉で、彼は主の来臨は遅れると宣言するのである。彼は他の者の心から、主がすぐに来られるという信念を追い払うのである。彼の影響が人々に無遠慮で不注意な遅れを生じさせている。人々は世俗的な麻痺状態を強めてしまう。世的なことに対する情熱や墮落した考えが思いを占める。悪いしもべは酔っ払いと共に飲み食いし、快楽を求めて世とひとつになる。彼は主人に忠実なしもべを非難し、とがめることによって自分の同僚を打ちたたく。……

キリストの再臨は偽りの教師たちを驚かせるであろう。彼らは「平和だ、無事だ」と言っている。エルサレム陥落前の祭司や教師たちのように、彼らは世的な繁栄と栄光を楽しもうと教会に期待している。時のしるしを彼らはその前兆として解釈している。しかし靈感の御言は何と述べておられるであろうか。「突如として滅びが彼らを襲ってくる。」……

人々は主の来臨をはるか遠くに押しやっている。彼らは警告を笑う。思い上がった、誇り高い言葉が次のように彼らの口から出る。「全ての物は天地創造の初めからそのままであって、変ってはいない。」「明日も今日のものであろう。すばらしい日だ」(ペテロ第二 3:4; イザヤ 56:12)。わたしたちはますます快楽を愛するようになるであろう。しかしキリストは「見よ、わたしは盗人のように来る」(黙示録 16:15)と言われる。世が軽蔑しながら、「主の来臨の約束はどうなっているのか」と尋ねているまさにその時、しるしは成就しつつあるのである。彼らが「平和だ、無事だ」と叫んでいる間に滅びが突如やってくる。真理を嘲る者や拒む者が僭越になるとき、さまざまな金儲けの仕事が原則を無視して当たり前にくりかえされるとき、また学生が聖書以外は何でも知識を得ようと熱心に探っているとき、キリストは盗人のようにやって来られる。(信仰によってわたしは生きる 342)

光景や音と犯罪

「わたしは目の前に卑しい事を置きません。わたしはそむく者の行いを憎みます。それはわたしに付きまといません。 ひがんだ心はわたしを離れるでしょう。わたしは悪い事を知りません。」(詩篇 101:3, 4)

一歩踏み出すごとに誘惑に遭遇する子供たちについて、あなたが深く憂慮するには理由がある。彼らが悪い仲間と接触するのを避けることは不可能である。……彼らはいろいろな光景を目にし、いろいろな音を聞き、また道徳を退廃させ、彼らが徹底的に守られなければ、知らず知らず、しかし確実に心を墮落させ、品性をそこなう影響力を受けやすい。……

ある父親や母親は非常に無関心であつたり不注意であつて、自分の子供たちが教会小学校に行こうが公立の学校に行こうが大した違いはあるまいと考える。「世の中に住んでいるのだもの、そこから抜け出すわけにはいかないよ」と彼らは言う。しかし両親がたよ、わたしたちはその気さえあれば、世の中から抜け出るよい道を得ることができるのである。わたしたちは、この終末の時代にすみやかにふえていく多くの悪から目をそらすことができる。わたしたちは実在する多くの悪や犯罪について聞くのを避けることができる。……

子供や青年たちの活発な頭脳にとって、未来の空想物語にえがかれている場面は現実的なものである。革命が予告され、法律や自制心の防御などを破る各種の行動が描写されると、多くの者はその内容に心を捕われる。彼らはこうしたセンセーショナルな作家の描写するところよりも、できればもっとひどい犯罪を犯すようになる。こういうような感化によって社会は乱れてきている。不法の種が広くまかれている。その結果、犯罪が発生しても驚くにあたらない。……

毅然(きぜん)として次のように言おう。「わたしはなんら役に立たない読み物や、他人に対してわたしを役立たせなくするだけの読み物に貴重な時間を費やさない。わたしは自分の時間と思考を、神への奉仕に役立つようなことにささげる。くだらない、罪となるような物事に対しては目を閉じる。わたしの耳は主のものであり、わたしは敵の巧妙な議論は聞かないことにする。わたしの声は、神の御霊の感化の下にない意志にはどんなことがあっても従わない。わたしの体は聖霊の宮であり、そしてわたしの身体のあらゆる能力は価値のある仕事にささげる。」(7 ドベンチスト・ホーム 461-465)

唯心論と革命

「彼は答えて言った、『心をつくし、……主なるあなたの神を愛せよ』。また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』。」(ルカ 10:27)

青少年たちが、世の中に出て行って、金もうけの欲望、享楽や放縦、みえ、ぜいたく、ほうとう、不当なもうけ、詐欺、盗み、破滅といったような罪への誘惑に出会うとき、彼らはそこでどんな教えに直面しなければならないであろうか。

唯心論 (Spiritualism) では、人間は神的性格をもった墮落しない存在で、「自分の心をさばくものは自分の心である。」「人は真の知識をもつとき一切の律法に超越する。」「罪を犯しても罪とはならない」と主張される。なぜなら「すべて有るものは正しい」からであり、また「神は罪を定めない」からであるというのである。どんな下等な人間も天国に行って高い地位を与えられると説かれている。こうして、その教えはすべての人に向かって「どんなことをしてもかまわない。あなたがたの好きなように暮らしなさい。天国はあなたがたの家郷だ」と宣言する。多くの人々は、こうして、欲望こそ最高の律法であり、放逸こそ自由であり、人は自分自身にだけ責任があると信じるようになる。

人生の最初、すなわち衝動が最も激しく、そして自制と純潔が最も緊急に要求されているときに、徳を守るものはどこにあるであろうか。世が第二のソドムとなることを防ぐものは何であろうか。

同時にまた無政府主義が、いっさいの律法を、すなわち神の律法だけでなく、人間の法律までも廃そうとしている。富と権力の集中、多数の者を犠牲にして少数の者だけで富をにぎろうとする巨大な団結、自分たちの利益と権利を守ろうとする下層階級の団結、不安と暴動と流血の精神、フランス革命をひきおこしたのと同じ教えの世界的なひろがり、一こうしたすべてのことが、フランスをゆり動かしたのと同様の争乱に全世界をまきこむのに役立っている。

今日の青少年たちは、こうした勢力に直面しなければならないのである。このような動乱のさなかに立つためには、彼らはいまその品性の基礎を置かなければならない。

品性を築くための真の基礎と型とは、どんな時代にあってもまたどんな国にあっても、同じである。「心をつくし、……自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」という神の律法—救い主のご品性と一生に現わされているこの大原則こそ、ただ一つの堅固な基礎であり、ただ一つの安全な道しるべである。(教育 269-270)

人が作った標準を警戒せよ

「悪い働き人たちを警戒しなさい。……神の霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇とし、肉を頼みとしないわたしたちこそ、割礼の者である。」(ピリピ 3:2, 3)

聖霊に心に触れていただく必要のある者がいる。そうすれば現代のためのメッセージが彼らの重荷となるであろう。彼らは人間の作った基準、何か目新しい変ったことを捜し求めなくなる。第四条の戒めである安息日は現代にとっての試金石である。(伝道 213)

ほとんどいたるところで無効にされている神の戒めは現代にとって試みとなる真理である。……神を礼拝するすべての者がこのしるしによって区別される時が近づいている。彼らは天に対するこの忠誠の印によって、神のしもべとして知られるようになるであろう。しかし人間が作ったすべての基準が現代の真理を構成する偉大で重要な教理から人の心をそらすであろう。

極端な行為に走る者をわたしたちの中に送り込むのはサタンの願いであり、計画である。このような者は狭い心の持ち主であり、批判的で鋭く、真理がもたらすことについて自分自身の考えを抱くことに非常に固執する。彼らは苛酷で、きびしい義務を強要しようとする。そして些細な事柄に対して、どんなにでも骨を折る。そうしながら彼らは律法のもっとも重要な事柄、すなわち公正とあわれみと神の愛をおろそかにするのである。この類の人々が数名で行う働きを通して、安息日遵守者全体が、頑固に固執するとか……狂信的であると指摘されるのである。……

神は人々がなすべき体験をするように特別な働きを用意しておられる。彼らは神の働きを守らねばならない。自分の独断的判断で、物事を進め、自分の好むことを何でも説き、自分の指図や働きを行うためには何に対しても無責任なことが自分の特権であると感じるような者に神の働きは委ねられることはないということを彼らは知るべきである。このうぬぼれの精神がひとたびわたしたちの仲間の中で支配すると、行動の調和や精神の一致、またみ働きのための安全性、そして大目的のうちにあつての健全な成長などがなくなる。……キリストはご自分と御父が一つであられるように、ご自分に従う者たちが一つとなるよう祈られた。この祈りが応えられるのを見たいと願う者は、ほんのかすかな不一致の傾向でも思いとどまるよう努めるべきであり、兄弟の間に、一致と愛の精神を保つよう努力すべきである。(同上 212, 213)

癒しは悪魔から来ることもある

「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。」（ペテロ第一 5:8）

サタンは誤謬は今も増え続けており、真理の道からそれる者は自分のいる位置が分からなくなる。彼らは錨をおろすところがないので、次々と惑わしに流され、異常な教理の風に吹き散らされる。サタンは巨大な力をもって降りてくる。多くの者が彼の奇跡に欺かれるであろう。（伝道 362）

将来非常に用心深くなる必要があると告げるようにわたしは指示されている。神の民の間に霊的に愚かさがあるべきではない。悪霊は人間の精神を支配しようと活発に働いている。人々はいくつもの束に束ねられ最後の時に火で焼き尽くされる用意をしている。キリストとキリストの義を捨てる者は世に汨濫している詭弁を受け入れる。クリスチャンは身をつつしみ、目をさましているべきであり、彼らの敵、ほえたけるししのように食いつくすべきものを求めて歩きまわっている悪魔に断固として抵抗すべきである。悪霊の感化のもとにいる者たちは奇跡を行うであろう。……

わたしたちは欺かれる必要はない。サタンが深くかかわっている驚くべき光景がまもなく起こるであろう。神の御言はサタンが奇跡を行うと宣言している。サタンは人々を病気にし、それから突然彼の邪悪な力を彼らから取り除く。それで人々は癒されたように考える。このような目に見える癒しの働きがセブンスデーアドベンチストにテストとしてもたらされる。……

癒しが自分を通して行われた者が、もし、これらの現われのために神の律法を無視し、不従順を続けるなら、彼らはいかなる、またあらゆる範囲まで力を持っていたとしても、神の偉大な力をもってはいない。それどころか、これは大欺瞞者の奇跡を行う力なのである。サタンは道德律の違反者であり、人間をその真の性質に対して盲目にするために自分が駆使できるすべての策略を用いている。わたしたちはこの最後の時代にサタンがしるしと偽りの不思議を用いて働く警告されている。そしてサタンは、恵みの時、猶予の期間が終るまでこの不思議を続け、それによって、自分が闇の天使ではなく、光の天使であることの証拠として人々に示す。（*リバイバルとその向こう* 48, 49）

荒れ狂う地上

「小羊が第六の封印を解いた時、わたしが見ていると、大地震が起って、」(黙示録 6:12)

預言は、キリスト再臨のようすと目的を予告するだけでなく、人々がその近づいたことを知るように、しるしも与えている。……黙示録の記者も、再臨に先だつ第一のしるしをこのように描写している。「大地震が起って、太陽は毛織の荒布のように黒くなり、月は全面、血のようにな」った。

こうしたしるしは、十九世紀の開始前に起こった。この預言の成就として、一七五五年に、これまでの記録を破る恐ろしい地震が起きた。これは、一般にリスボンの地震と言われているが、ヨーロッパの大部分、アフリカ、アメリカにも及んだ。グリーンランド、西インド諸島、マデイラ島、ノルウェー、スウェーデン、大ブリテン(英国)、アイルランドでも感じられた。その範囲は、四百万平方マイルに及んだ。アフリカでは、ヨーロッパと同様の激震であった。アルジェは大半崩壊した。そしてモロッコ付近の、八千から一万人ぐらいの人口をもっていた村が陥没した。スペインとアフリカの沿岸には、高波が押し寄せて町々をのみ尽くし、大きな破壊をもたらした。

地震が特に激しかったのは、スペインとポルトガルであった。カディスでは、押し寄せる波の高さが、六〇フィート(約一八メートル)もあったという。「ポルトガルの高山のいくつかは、あたかもその根底から覆えさされるかのように、猛烈に震動した。」……

「地震は聖日に起こり、教会や修道院は人々でいっぱいだったが、逃れた者はほとんどいなかった。」……この恐るべき日に生命を失った人の数は、九万と推定されている。(各時代の斗争闘上巻 391-393)

地震、大竜巻、火事、洪水による破壊、人命財産の大損害などを、なんと度々耳にすることであろう。一見、こうした災害は、人間の力を超えた自然の猛威が突発的に起こしたものと思われるであろう。しかし、その中にあって、神のみこころを悟ることができるのである。神は、こうした方法によって、人々に、彼らの危険を自覚させようとしておられるのである。(国と指導者上巻 244)

天でのしるし

「主の大いなる恐るべき日が来る前に、日は暗く、月は血に変わる。」(ヨエル 2:31)

救い主は、オリブ山上で弟子たちと語り、教会の長い試練の期間、すなわち、1260 年間にわたる法王権の迫害について述べ、その苦難は短くされると約束された。それから、再臨に先だって起こる諸事件をあげて、その最初のものがいつ起こるかを定められた。「その日には、この患難の後、日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ」(マルコ 13:24)。1260 日、すなわち 1260 年は、1798 年に終わった。その四半世紀前に、迫害はほぼ完全にやんでいた。キリストの言葉によれば、この迫害のあとで日が暗くなるのであった。1780 年 5 月 19 日に、この預言は成就した。

「この種の現象として、他に類例がなく、最も不思議で説明することができないものは……1780 年 5 月 19 日の暗黒日である。これは、ニュー・イングランド地方の空全体をおおった不可解な暗黒である。」(R.M.Devens, わたしたちの最初の世紀 89) ……

昼間の濃い暗黒は、夕方の一、二時間前まで続き、まだ暗く重くらしい霧にさえぎられてはいたが、幾分か晴れた空のすきまから太陽が現われた。「日没後、また雲がでてきて、急速に暗黒になった。」「その夜の暗黒は、昼間の暗黒に勝るとも劣らぬ異常で恐ろしいものであった。月は、ほとんど満月であったにもかかわらず、灯火の助けをかりなければ、何も見えなかった。……」(イザヤ・トーマス マサチューセッツ・スパイ；もしくはアメリカン・オラクル・リバティ 10 巻 No.472 (1780 年 5 月 25 日))

目撃者によるこの事件の描写は、その成就の 2500 年前の預言者ヨエルが記録した主の言葉のくり返しに過ぎない。「主の大いなる恐るべき日が来る前に、日は暗く、月は血に変わる」。

キリストはご自分の民に、彼の再臨のしるしによく注意し、来たるべき王のしるしが見えたならば喜べとお命じになった。(各時代の大争闘上巻 393-397)

落星

「星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。」(マタイ 24:29)

1833年に、再臨のしるしとして救い主が約束された最後のしるしが現われた。イエスは、「星は空から落ち」と言われた。ヨハネも黙示録の中で、神の日の到来を告げる光景を幻に見て、「天の星は、いちじくのまだ青い実が大風に揺られて振り落されるように、地に落ちた」と言った。この預言は1833年11月13日の大流星雨によって、顕著にまた印象的に成就した。これは、有史以来の最も広範囲に及ぶ驚くべき落星の光景であった。「その時、全米の空全体が、数時間にわたって燦然と輝いた。これは、この国に最初の植民地が設けられて以来、起こったことのない天体の異変であった。そして、ある人々は熱烈な賛美をもって見る一方、他の者たちは非常な恐れと不安をもって見ていた。」「その崇高で荘厳な美しさは、今なお多くの人々の心から消えない。……雨も及ばないような激しきで、流星が地に降った。東も西も、北も南もどこも同じであった。一言で言えば、全天が活動しているように見えた。……シリマン教授の雑誌の記事によると、この現象は、北米全土で見られた。……二時から夜明けまで、空は一片の雲もなく快晴であって、絶え間ない流星のまばゆい光が、全天を照らしていた。」

こうして、イエスが弟子たちに言われた再臨に関する最後のしるしが、あらわされた。「そのように、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい」。これらのしるしのあとで、ヨハネは、天は巻き物が巻かれるように消えていき、地は震い、山と島とはその場所から移され、悪人は恐れて人の子の前から逃げるといふ、その次の大事件を見た。(各時代の大争闘下巻 22, 23)

しかしキリストはご自分の来臨の日と時を明らかにしておられない。……人の子の再臨に関する正確な時は神の神秘である。(信仰によってわたしは生きる 344)

預言におけるオスマン帝国

『「大ユウフラテ川のほとりにつながれている四人の御使を、解いてやれ。すると、その時、その日、その月、その年に備えておかれた四人の御使が、人間の三分の一を殺すために、解き放たれた。」（黙示録 9:14, 15）

つぎつぎに現われては、割りあてられた時と場所を占めて、自分では意味のわからない真理を無意識のうちに証明した各国の歴史はわれわれに物語っている。神は、今日の国家にもどの個人にも、ご自分の大いなるご計画の中にそれぞれの立場を割り当てておいでになる。今日、国家も個人も誤ることのない神のみ手にある「はかりなわ」で測られているのである。われわれはみな自分自身の選択によって、自らの運命を決定しているのであって、神はご自身の目的の成就のためにすべてを支配されている。……

現在までに起こるべく預言されていたすべての事件は、歴史のページの中にその跡をたどることができる。これから後に起こるべき諸事件も必ずその順序通りに成就されるであろう。（教育 211）

1840 年に、預言のもう一つの顕著な成就があつて、広く一般の人々の興味をひき起こした。その二年前に、再臨を説く有力な牧師のひとり、ジョサイア・リッチは、黙示録九章の解説を発行し、オスマン（オットマン）帝国の滅亡を預言した。彼の計算によるならば、同帝国は、「紀元 1840 年 8 月中旬に」倒されるのであった。そして、その預言が成就するほんの数日前に、彼は次のように書いた。「最初の期間である 150 年が、トルコの承認のもとに、デアコゼスが即位する前に正確に成就したとするならば、最初の期間終了とともに始まった 391 年 15 日という期間は、1840 年 8 月 11 日に終了する。その時に、コンスタンチノーブルにあるオスマンの権力は失墜すると思われる。そしてこのことは、必ずそうなるものと私は信じる。」

定められたまさにその時に、トルコは、大使を通じて、ヨーロッパの同盟諸国の保護を受けることを承諾し、かくて自らをキリスト教諸国家の支配下においた。この事件は、預言を正確に成就するものであった。……再臨運動が一段と促進されることになった。（各時代の大争闘下巻 23, 24）

道徳の低い状態

「また、不品行とさまざまな汚れや貪欲などを、聖徒にふさわしく、あなたがたの間では、口にすることさえしてはならない。」(エペソ 5:3)

今日思いや道徳の低い状態を示す会話が不安になるほどあたりまえになっている。品性の真の品位は本当にまれである。真のしとやかさや慎みはめったに見られない。純潔で汚れのない人はほとんどいないのである。……

汚れた思いをいだくことが習慣となっており、魂は傷跡がつき汚されている。一度悪い行動を起こすとキリストの血以外ではいやすことのできないしみがつく。そして堅い決意と共にその習慣が変わらない限り、魂は墮落し、この汚れた源から流れ出る川が他の者をも墮落させるのである。

誘惑をまねく男女がいる。いかがわしい社会に自分の身をおくとき、彼らは誘惑される場所、すなわち誘惑されずにはいない場所へ身をおいているのである。魂を罪から守る最善の方法は、いついかなる状況の下でも、十分考えて行動することであり、決して衝動にかられて動いたり、行動したりしないことである。絶えずあなたの前におられる神を畏れて行動しなさい。そうすればあなたは必ず正しいことを行うようになる。(天国で 197)

年配の者も若い者もみな、道徳上の危険にさらされており、この危険は日毎に増加している。わたしたちが腐敗と呼ぶ道徳上の混乱は、十分な働き場を見出し、クリスチャンであると公言する男女、若者によって、低く好色で悪魔的な感化力が発揮されている。……

真理を学んでいながら自分の信仰告白と調和する働きをしない者はサタンの誘惑の対象である。彼らは自分が進む一歩ごとに危険に出会う。彼らは悪と接触するよう導かれ、自分の抑制させられていない情欲を目覚めさせる光景を見、音を聞くのである。こういう人は心が健全ではないので、善よりもむしろ悪を選ぶようにと自分たちを導く感化力を受けやすい。……

今ほど若い男女に道徳上の正直さを持たせ、道徳的墮落というしみや汚点から彼らの魂を清めるための準備をさせるのに必要な時はない。(同上 196)

狂信と語る口

「預言者の霊は預言者に服従するものである。なぜなら聖徒たちのすべての教会でそうであるように、神は無秩序の神ではなく、平和の神だからである。」(コリント第一 14:32, 33 英語訳)

狂信の精神が安息日遵守者のある種の人々を支配している。……彼らは真理の泉から少ししか飲んでいないので第三天使の使命の精神を十分に知らない。彼らの狂信的な考え方が正されない限り、この種の人々のために何もすることができない。……

こういう人のうちある者は、自分では賜物と呼んでいる活動をもっており、主が自分たちを教会におかれたのだと言う。彼らは自分で未知の言語と呼んでいる無意味で訳のわからない言葉を使うが、それは人間だけでなく、主にも全天にも知られていない言葉なのである。そのような賜物は、大欺瞞者の助けを得て、男や女が作りだしたものである。狂信、偽りの興奮、誤った言語や、騒がしい行動が、神から教会におかれた賜物であるとみなされている。幾人かはこのようにして欺かれている。この種の生ずる実はすべて善なるものではなかった。……

規律や制度、また秩序に従おうとしない、落ち着きのない精神状態の者がたくさんいる。彼らは自分の判断を捨てて、経験のある者の判断に従うと、自分の自由がうばわれてしまうと考える。秩序に従い、彼らの集まりから、狂信という、向こう見ずな無秩序の精神を追い出さない限り、神のみ働きは進展しない。印象と感情はその人が主に導かれているという確かな証拠ではない。サタンは、疑われなければ、感情と印象を与えようとしているのである。この二つは安全な道しるべではない。すべての者は、わたしたちの信仰の証拠を徹底的に熟知すべきである。そして偉大な研究とは、彼らが自分の告白にどれほどの光彩を添え、神の栄光のために実を結ぶことができるかということであるべきである。……軽薄な行動、冗談、思慮分別を欠いた精神は譴責されるべきである。集まりですぐれた話や祈りをし、その集まりが終った後で荒々しい、不注意な態度で話をしたり、行動してしまうのは人の心に働く神の恵みの証拠ではない。……

神の真理は決して人の品位を下げることはなく、むしろ、受け入れる者を高め、その好みを精錬し、判断を清め、神の王国で聖天使や純潔な人々の仲間になるためにその人を完全な者とする。(教会への証 1 巻 411-415)

すべてのものを試しなさい

「にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。」(マタイ 7:15)

夫とわたしが神の摂理によって、役割を果たすべく召されたその働きの中で1843年と1844年にその一番初めからすでにわたしたちにはわたしたちのために創案し、計画して下さる主がおられた。主はご自分の代理人である人間を通してご自分の計画を実行された。わたしたちに偽りの道が非常にたびたび示されたが、また、わたしたちに与えられた、なすべき務めに関連した企画すべてに、真のそして安全な道が非常にはっきりと示されたので、わたしはサタンの企てばかりでなく、神の方法とみ働きにも無知ではないと実際に言うことができる。わたしたちは研究をするにあたって、導いていただくために、神からの知恵に頼りつつ、すべての精神力を絞らなければならなかった。神のみ言葉と神がわたしに、み言葉と証の書を通して表してくださった事柄から輝く光によって、別々の理論の長所と短所を比較検討して、わたしたちの注意を引くさまざまな理論をよく吟味しなければならなかったからである。それはわたしたちが欺かれないように、また他の人々を欺かないためであった。わたしたちは自分の意見と方法を神に委ねこの上なく熱心に神の助けを懇願した。そして求めが無駄に終わることはなかった。神のみ働きに関する長年の困難な経験はすべての種類の偽りの働きをわたしに知らせた。わたしは何度も使命でさまざまな場所へ送られた。「わたしたちはその場所でああなたが働く仕事を用意している。わたしはあなたと共にいよう」。ふさわしい時が来ると、主は間違った夢を持ち、空想している人々のためのメッセージをわたしに与えてくださった。そしてキリストのみ力によってわたしは主の命令のままに証を伝えた。……

過去45年間、わたしは他の人々に対する神からの譴責の使命を持っていると主張する人々に出会わねばならなかった。この宗教上の狂信の現われは1844年以来何度も起こっている。サタンは間違ったことを定着させようときさまざまな方法で働いてきた。これらの幻の中で話された事柄のいくつかは過ぎ去った。しかし多くの事柄、すなわちキリストの来臨のときのことや恵みの期間の終わりとそれに続いて起こる出来事に関しては完全に間違っていることがわかる。……

「だから、どう聞くかに注意するがよい」(ルカ 8:18)という言葉はキリストの勧告である。……「すべてのものを識別して」(テサロニケ第一 5:21)というみ言葉を詳しく調べなさい。……これはキリストの勧告である。わたしたちはこの勧告に心をとめるであろうか。(エレファント・メッセージ 2巻 75-79)

偽もの

「ただ律法とあかしとに求めよ。まことに彼らはこの言葉によって語らなければそこには夜明けがない。」(イザヤ 8:20 英語訳)

神の民は、偽の教師の感化や闇の霊の人を誤らせる力に抵抗する保護手段として聖書に導かれる。サタンは人が聖書の知識を得るのを妨げようと、できる限りの工夫をする。なぜなら聖書の明らかな言葉はサタンの欺きを表しているからである。神のみ働きをあらゆるリバイバルに悪の君はもっと熱心な活動をしようと奮起させられている。サタンは今キリストとキリストに従う者たちに対する最後の戦いのために最大限の努力をしている。最後の大欺瞞がまもなくわたしたちの前に展開する。キリストの敵は自分の超自然的な働きをわたしたちの目の前で行うのである。この偽者は本物とよく似ているので聖なる聖書によらない限り両者を区別するのは不可能である。あらゆる主張と奇跡は聖書の証で試されなければならない。……

奇跡の働きを自分の信仰の基準とする人は、あらゆる種の欺きによってサタンが本物の奇跡のように見える不思議を行うことができることを発見するのである。

サタンは狡猾な仕事人であって、巧妙さ、誤った考えを持ち込んで、心を不明瞭にし、また混乱させ救いの教理を根絶しようとする。神のみ言葉を読むその通りに受け入れないものはサタンのわなにかかるのである。

悪天使は毎瞬間わたしたちの行く道にいる。……彼らは新しい場所を受け持ち、わたしたちの目の前で不思議と奇跡を行う。……

ある者はこれらの不思議を神からのものとして受け入れるよう誘惑される。病気の者がわたしたちの前で癒される。奇跡が目で行われる。サタンの偽りの不思議がもっと完全に行われようとしているこの時、わたしたちを待ち受けている試練に向けて準備しているのだろうか。多くの魂はわなにかかけられ、捕らえられないであろうか。神のはっきりした教えと戒めから離れ、作り話に心を留めることによって、多くの人の心はこれらの偽りの不思議を受け入れる準備をしている。わたしたちはみな、まもなく加わらなければならない争いのために今、自分自身を武装しようと努めるべきである。よく祈って研究し、実際に用いた、神のみ言葉による信仰は、サタンの力に対する盾であり、キリストの血を通してわたしたちを勝利者とする。(リバイバルとその向こう 47, 48)

分裂させる者に気をつけよ

「罪の誘惑が来ることは避けられない。しかし、それをきたらせる者は、わざわざである。」(ルカ 17:1)

神は人々を導き出し、彼らが一つとなつて一致して、同じことを話し、ご自分の弟子のために祈られたキリストの祈りを実行するために彼らを準備をさせておられる。……「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。」……

神は非常に少数で、散らされている者だけと共におられると信じる小さな集団が絶えず現われている。そして、彼らの感化は神の僕が築きあげたことを台無しにし、散らしている。……神のみ言葉に従つて一つになるためにあらゆる努力をしている人々、すなわち第三天使のメッセージに確立されている民を、彼らは懐疑的に見る。彼らが自分たちの働きを広げ、魂を真理に導き入れようとしているという理由でそうするのである。彼らが世の中で影響力があるからといって、彼らを世俗的だとみなすのである。……

神に導かれていると主張する者が現われ、悪人の復活はなんという異説を支持する。……。他の者は未来に関する間違つた見解を心に抱く。……彼らは、みな宗教上の完全な自由を望み、各々他のものから独立していたがり、なおかつ神が自分たちの中で特別に働いておられると主張するのである。……この人々は健全な考えをもっていない。彼らは間違つた興奮でわれを忘れており、わたしたちは彼らが真理をもっていないことを知っている。……神は彼らが改革されるか、それとも安息日を放棄するかのをいずれかを望んでおられる。そうすれば彼らが未信者の道に立ちふさがることはないからである。

神は世が自分たちを憎むような道を進んでいく者たちを憤っておられる。もしクリスチャンが自分の良い働きのゆえに憎まれ、キリストに従うゆえに憎まれるなら、報いを受けるであろう。しかし、もし彼が愛される者にふさわしい進路をとらないために憎まれ、品性を啓発されていない行動のゆえに憎まれ、真理を隣人との争いの材料にしたり、安息日をできる限り、隣人を悩ますものとしたりするなら、この者は罪人に対するつまずきの石であり、聖なる真理に対する恥辱であり、彼が悔い改めるまではひきうすを彼の首につけて、海に投込むほうが彼にとってもっとも良いことなのである。(霊的賜物 4 巻 158-160)

偽りの幻の結果

「良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれる。このように、あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。」(マタイ 7:19, 20)

今(1890年)生きている者のうちにある者は懷疑論者であり、教会の賜物に確信を持たず、真理に信仰をもっておらず、まったく宗教心がないのである。そのような者は確かに、偽りの幻の結果であると、わたしは示されている。……

サタンは……真理から導きそらすために、絶えず偽物を押しつけている。

サタンの最後の欺きは、神の御霊の証を無効にすることである。「預言がなければ民はわがままにふるまう(幻がなければ民は滅びる)」(箴言 29:18)。サタンは巧妙に、さまざまな方法で、色々な代理人を通して働き、真の証をもった神の残りの民の確信をゆるがせようと働く。彼は誤りに導こうと偽りの幻を持ち込み、偽りと真理を混ぜる。そうすることによって人々をうんざりさせるので、人々は幻という名を持つものをすべて、狂信の類と考えてしまう。しかし、誠実な魂は、偽りと真理を比べることによって、両者を区別することができるのである。……

魂の利益、その純潔、その真実で聖なる神についての概念、また聖なる永遠の事柄についての概念にとって、神からのものではない事柄を高め、絶えず心にとめることほど有害なものはない。神からのものでないものは心を毒し、理解力を低める。純粋な真理は天にその源をたどることができ、その高尚な、純化され、清められた感化によって、その真理を受け入れる者の品性に影響を与える。すべての真理の創始者であられる方はみ父に「わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにさせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります」と祈られた(ヨハネ 17:20, 21)。

分裂を引き起こし、真理から引き離すような事柄が絶えず起こってくるであろう。この疑問を抱き、批判し、公然と非難し、他の者に判決を下すと言う行為は心にキリストの恵みがない証拠である。このようなことから一致は起こってこない。そのような働きは昔、自分は罪の中に深く沈んでいながらすばらしい光をもっていると主張していた人々が行っていたことである。(セラフ・メッセージ 2巻 78, 79)

隊列に加わる

「へりくだる者は、これを見て喜べ。神を求める者よ、あなたがたの心を生きかえらせよ。」(詩篇 69:32)

主にあつて喜び、主のささえてくださる恵みの知識のうちに喜ぶのは、あなたの特権である。主の愛を心と精神に持ちなさい。疲れはてたり、やせ衰えたり、落ち込んだりしないよう用心しなさい。高める証をする責任を負いなさい。あなたの目を暗いことや落胆することから転じ、わたしたちの偉大な指導者であられるイエスを見なさい。このお方の眠ることのない監督のもとに、わたしたちが自分の命と、わたしたちのすべてをささげている現代の真理のみ事業は、栄光のうちに勝利するようあらかじめ定められているのである。

イエスが心のうちに共にいてくださり、支え、強め、慰めてくださっていることが……見られるようにしよう。日々豊かにイエスから聖霊を授けていただくこと、またわたしたちが世に宣言しているメッセージの重要性と範囲に対してより広い見解をもつことは、あなたの特権である。主は、ご自分の律法のくすしきことをあなたに示そうとしておられる。謙遜な心で主のみ前で待ちなさい。わたしたちが生きているこの時代についての理解、主のご目的についてのもっと十分な概念、また救霊において効率がまし加わることを求めて、この上なく熱心に祈りなさい。
……

まもなく地上の起こることを考えるのはわたしたちにとって良いことである。些細なことや自己探求のための時間はない。わたしたちが生きているこの時代がわたしたちの心に重大な印象を与えないとしたら、いったい何がわたしたちの心に触れることができよう。……

はっきりと理解している人が今必要とされている。完全な改革の働きに導いていただくために、聖霊に支配されることを願っている者を神は召しておられる。わたしたちの前に危機が見える。そして主は、隊列に加わるようにとご自分の働き人に呼びかけておられる。すべての魂はすでに過ぎ去った年月の間よりも今、もっと深く、もっと真実に神へ献身すべきである。……

わたしは最近、夜の間にわたしの目の前を通り過ぎた光景に深く印象を受けている。大いなる運動、すなわち回復の働きが多くの場所で進展しているように思われた。わたしたちの仲間になるべき人々が神の召しに答えて、隊列に加わってきていた。……わたしたちは神の声に心をとめないであろうか。わたしたちは灯を整えて、自分の主が来られるのを待ち望む人々のように行動しないのであろうか。今は灯を身につけて、行動するよう呼びかけるその時である。(セクレット・メッセージ 2 卷 399, 400)

研究 23

三重のメッセージ



もうひとりの御使のメッセージ

Part 2

光の始まり

「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。」(黙示録 18:1)

「この時代の命にかかわる最も重要な質問は、『だれが主の側につくか。だれが世に真理のメッセージを伝える御使に一致する (united) か。だれがその栄光をもって全地を満たす光を受けるか』ということである。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1889 年 11 月 5 日)

「もしわたしたちが地をその栄光で明るくする栄光の御使の光を受けたいのであれば、わたしたちの心が後の雨のための準備ができるように、自己は空にされて清められ、天に向かっていることを確認しよう。地をその栄光で明るくする御使の宣布に加わるのにふさわしい者となろう。」(サインズ・オブ・タイムズ 1892 年 8 月 1 日)

黙示録 18 章 1 節の天使は、まず内なる働きをしなくてはなりません。すなわち、「第三天使のメッセージは強められ、確認されなくてはな」りませんが(伝道 230)、これは後の雨の力の下で、彼が大いなる叫びを伝えることができるようになる前に教会員の間におこるリバイバルと改革について言及しています(黙示録 18:2～4)。

主の僕は、もうひとりの御使の働きは 1888 年に始まり、そのときその光線

が初めて現れ、「第三天使のメッセージそのものを」強めると述べています(セケグド・メッセージ 1 巻 363)。この小さな始まりから、この光はクライマックスにまで大きくなっていくのです。

「メッセージは御使の光が進むにつれて、その強さを失ったりはしない。なぜなら、ヨハネは、それに強さと力が増し加わり、全地がその栄光で明るくされるのを見ているからである。神の戒めを守る民の進路は、前進、つねに前進である。わたしたちの担う真理のメッセージは、国民、国語、民族へと伝えられなくてはならない。まもなく、それは大いなる声で伝えられ、そして地はその栄光によって明るくされるのである。」(教会への証 5 巻 383)

「第三天使のメッセージの宣布に協力する天使は、その栄光で全地を照らすのである。」(各時代の大争闘下巻 381)

預言された改革は、後の雨の下に、病人の奇跡的な癒しや他のしるしや不思議によって始まらなくてはならないという考えは、教会への証 9 巻 126 の誤った解釈です。そこには、改革運動の始まりではなく、クライマックスが言及されています。わたしたちは次のように警告されています。

「主が自分たちに送られたメッセージを拒む多くの人々は、疑いをかける掛け釘を見つけようと、すなわち天からの光を拒む何らかの言い訳を探そうとしている。はっきりとした証拠を目の前にしながら、彼らはユダヤ人のように、「奇跡を見せてほしい。そうすればわれわれは信じよう。もしこれらの使命者たちが真理をもっているならば、なぜ彼らは病人を癒さないのか」と言う。……

もし彼らの目が開かれるならば、彼らは悪天使たちが自分たちの周りで大喜びし、彼らを欺く自分たちの力を勝ち誇るのが見えることであろう。サタンがこれらの疑う者たちの要望に応じて、このような種類の証拠を求めているすべての人々の信仰を裏付けるために数多くの奇跡を見せる日は、わたしたちの目前に迫っている。真理の光に対して自分たちの目を閉じ、自分たちを欺瞞に凝り固まらせるための奇跡を求める人々の状況は、いかに恐ろしいものであろう。」(伝道 594)

「わたしたちの全教会員を通じてくまなく改革がなくてはならない。病人の癒しのために際立った方法で神の力が表されることを期待できる前に、民はより高い

標準に達しなければならない。」(医療伝道 15)

「偉大な改革の運動は、父親と母親と子供たちに神の律法の原則を提示することから始められなければならない。」(教会への証 6 巻 119)

示された数々の証拠は、黙示録 18 章の天使の来た第一の目的が、初めに委ねられた人々の手中で弱められてしまった第三天使のメッセージに力を与えることであることを明らかにしています(伝道 230, 教会への証 6 巻 60, 教会への証 8 巻 118, 119, 初代文集 448, 牧師への証 411)。預言の霊(証の書)の言葉によれば、第三天使のメッセージがもうひとりの御使によって強められるときにのみ、それは大いなる叫びへと盛り上がっていくことができるのです。

現されたキリストの義

「主はその大いなる憐れみのうちに、ご自分の民に、ワゴナー長老とジョーンズ長老を通して、もっとも尊いメッセージをお送りになった(1888 年)。このメッセージは世の前に上げられた救い主、すなわち全世界の罪のための犠牲をもっと顕著に示すものであった。それは、保証人を信じる信仰を通しての義認を提示した。神のすべての戒めに対する従順のうちに表されたキリストの義を受けるようにと民に勧めた。多くの人々は、イエスを見失っていた。彼らはこのお方の神性、このお方の功績、そしてこのお方の人類家族に対する変らない愛に、自分たちの目を向ける必要があった。人類に豊かな賜物を施し、ご自身の義という無限の価値を持つ賜物を無力な人間に与えることができるように、いっさいの権威はこのお方の手中に与えられている。これが、神が世に伝えるようにと命じられたメッセージである。それは第三天使のメッセージであって、大いなる声で宣布され、大規模な神のみ霊の注ぎが伴うのである。」(牧師への証 91, 92)

「テストの時がまさにわたしたちに臨もうとしている。なぜなら、第三天使の大いなる叫びは、キリスト、すなわち罪を許される贖い主の義の啓示のうちにすでに始まっているからである。これは全地をその栄光でおおう御使の光の始まりである。」(レクテッド・メッセージ 1 巻 363)

「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる。」(箴言 4:18)

「輝き、栄光、そして力が第三天使のメッセージに伴っていなければならない。そしてそれが聖霊の表れのうちに宣布されるところではどこでも、その後に確信が続くのである。いったいわたしたちの兄弟のうちだれか、この光がいつ神の民にもたらされるかをわかる人がいるであろうか。今のところ、確かにわたしたちはこの記述に見合った光を見てはいない。神はご自分の民のための光をもっておられる。そしてそれを受け入れる者はすべて、生ぬるい状態のままでいることの罪深さを悟るのである。彼らは真の証人の勧告に注意を払う。」(ビュ・アド・ハルト 1890年4月1日)

克服すべき障害

「心はすすがれて良心のとがめを去り、からだは清い水で洗われ、まごころをもって信仰の確信に満たされつつ、みまえに近づこうではないか。」(ヘブル 10:22)

「もしわたしたちが地をその栄光で明るくする栄光に満ちた天使の光を受けたのであれば、わたしたちは自分たちの心が清められているか、自己が空にされているか、天に向かって開かれているかを確かめよう。それはわたしたちが後の雨のために準備できるためである。地をその栄光で明るくする御使の宣布に参加するのにふさわしい者へとなっていこう。キリストの共労者となろう。いまこそ、わたしたちが自己に死に、肉を愛着と欲と共に十字架につけ、食欲と情欲の渴望を否定すべき時である。多くの者の思いは、不純な考えの通路となっている。彼らは罪の不快な性質に対して敏感な自覚がない。わたしはあなたがたに王の大路を清めるようにとお願いする。あなたがたの上には重大な責任が負わされている。なぜなら、あなたがたは世に対してあなたがたの主のご品性を代表しなければならぬからである。行いのない信仰は死んだものである。そこには働きに見合った行いがなくてはならない。さもなければ信仰に価値はなく、単なるみせかけであり、虚しい告白である。あなたがたは高潔な生涯によってあなたの信仰を表し、キリストがあなたのうちに宿られていること、またあなたがたが神に召されていだっている望みがどんなものであるかをあなたが示すことができることを明らかにしなければならない。」(サイン・オブ・タムズ 1892年8月1日)

「サタンは、民としてわたしたちの間に、わたしたちを悟らせたり、譴責したり、

わたしたちの過ちを捨て去るようにと熱心に勧めるものが何一つ入らないようにとありとあらゆる可能なかぎりの手段を講じてきた。しかし、神の契約の箱をになう民がいる。……神がそのみ霊を人間に注がれるとき、彼らは働く。彼らは主のみ言葉を宣布し、彼らはラッパのように自分たちの声をあげる。真理が彼らの手中でその力を減じたり、失われたりすることはない。彼らは民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示すのである。」(牧師への証 411)

改革の働き

「そこで、あなたに勧める。富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買ひ、また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買ひなさい。また、見えるようになるため、目にぬる目薬を買ひなさい。」(黙示録 3:18)

「神はこの時代の必要に応じるために、大声で呼ばわって惜しまない人々、自分たちの声をラッパのようにあげ、そしてわが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示す人々を起こしてこられた。彼らの働きは律法を宣布するだけではなく、今の時代のための真理—主われらの義—を宣べ伝えることである。」(レ・ユー・アンド・ヘラルド 1889 年 8 月 13 日)

「わたしたちは自分たちがもっていない何か—信仰と愛の金、キリストの義の白い衣、霊的識別力の目薬—の必要を感じている魂がいることを神に感謝する。」(レ・ユー・アンド・ヘラルド 1889 年 7 月 23 日)

「あなたはラオデキヤのメッセージをはっきりと明確に伝えることができるように、もっともへりくだって神を求めないであろうか。危険を察知し、警告する神の見張り人たちは、どこにいるであろうか。聖霊の靈感の下に、人間の唇から伝えられるメッセージがあることを確認しなさい。『大いに呼ばわって声を惜しむな。……わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せ。彼らは……義を行い、神のおきてを捨てない国民のように』、『日々わたしを尋ね求め』る。」(牧師への証 296)

「大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラッパのようにあげ、わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せ。」(イザヤ 58:1)

「彼らは神の民、ヤコブの家となえられてはいるが、また彼らは服従と交わり

において神につながっていると公言してはいるが、彼らは神から遠い。すばらしい特権と約束が彼らに与えられてきたが、彼らは自分たちへの信頼を裏切ってきた。へつらいの言葉なく、メッセージが彼らに伝えられなければならない。「わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せ」。彼らがどこで間違いを犯してきたかを示しなさい。彼らの危険を彼らの前に示しなさい。彼らが自分たちの義を誇りながら、その一方で同時に彼らが犯している罪を告げなさい。」(SDA パイブル・コメント [E・G・初巻・コメント] 4 巻 1149)

義と悪を区別する

「見よ、あなたがたの断食するのは、ただ争いと、いさかいのため、また悪のこぶしをもって人を打つためだ。きょう、あなたがたのなす断食は、その声を上に聞えさせるものではない。このようなものは、わたしの選ぶ断食であろうか。人がおのれを苦しめる日であろうか。そのこうべを草のように伏せ、荒布と灰とをその下に敷くことであろうか。あなたは、これを断食ととなえ、主に受けいれられる日と、となえるであろうか。」(イザヤ 58:4, 5)

「これらの礼拝者たちは、一方で嘆き悲しんだりしながら、品性の好ましくない性癖をすべて残している。彼らの心はへりくだってはならず、霊的な汚れから清められてもいない。彼らは神の恵みという心を和らげる雨を受けていない。彼らは聖霊に欠け、天に感化された優しさに欠けている。彼らは悔い改めも、愛によって働き、魂を清める信仰も示さない。人との付き合いにおいては不正で利己的であり、自分たちよりも下であるとみなしている者たちを情け容赦なく虐げている。それなのに、み力を彼らに現すのを怠っていると言って神を責め、自分たちの義のゆえに自らを他の人たちよりも称揚する。」(SDA パイブル・コメント [E・G・初巻・コメント] 4 巻 1150)

「内面に恵みの働きが必要である。魂のへりくだりが欠かせない。神はこれをご覧になる。神は、神の前に心を低くする人々を喜んで受け入れられる。神は彼らの嘆願を聞き、彼らの背信を癒される。

牧師にも民にも、神の裁きが彼らから取り去られるように、魂を清める働きが必要である。神はへりくだりと悔い改めを待ちわびておられる。神は、全心中で神に立ち返る人々をすべて受け入れられる。……

わたしたちの周りのいたるところに苦悩する魂がいる。これらの苦しんでいる者を探し出し、時にかなった慰めの言葉を彼らの心に語ろう。ここかしこで一あらゆる所で一わたしたちは彼らを見つけるであろう。いつでも彼らに向かって同情という、元気づける水を流すことができるような通路でいよう。空腹な者や苦しむ者の必要に答える人々に対する約束は、「そうすれば、あなたの光が暁のように現われ出」る、である。

多くの人々が薄暗がりの中にいる。彼らは自分の方角を見失っている。彼らはどんな進路に進んだらよいのかわからないのである。悩んでいる人は、悩みの中にいるほかの人を捜し出し、そして彼らに希望と励ましの言葉を語ろう。彼らがこの働きを始めると、天の光が彼らに行くべき道を啓示するのである。苦しむ者を慰める彼らの言葉によって、彼ら自身が慰められるであろう。他の人を助けることによって、自分自身が困難から助け出されるようになる。」(SDA バイブル・コメント[E・G・ホワイト・コメント]4 巻 1150, 1151)

目に見える特徴

「また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。もし、あなたの中からくびきを除き、指をさすこと、悪い事を語ることを除き、飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼ようになる。主は常にあなたを導き、良き物をもってあなたの願いを満ち足らせ、あなたの骨を強くされる。あなたは潤った園のように、水の絶えない泉ようになる。あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる。もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならば、その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う。これは主の口から語られたものである。」(イザヤ 58:9～14)

「クリスチャンとしてわたしたちは、成長して目に見えるようになる義—イエス・

キリストがわたしたちの世におられたときのご品性を表す義—を持たなくてはならない。

ここに改革者となる人々、すなわち第三天使のメッセージの旗印をになう人々、神の戒めを守る民だと言明する人々、そして神に誉れを帰し、全宇宙の前で久しく荒れすたれたる所を建て直す働きに熱心に携わる人々の特徴が挙げられている。だれが彼らを、破れを繕う者、市街を繕って住むべき所となす者と呼ぶのであろうか。それは神である。彼らの名前は天で、世々破れた基を立てる者として、改革者、再建者として登録される。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1151)

なります。彼らはロボットとして造られたものではありませんでした。彼らには選びの自由(じゆう)があたえられており、彼らは一生のあいだ、神さまが自分たちに救われるチャンスをゆたかにあたえて下さっていたことをみとめるのです。なぜ彼らはそのときになって、このお方を礼拝(れいはい)するようになるのでしょうか。次の聖句(せいく)に、その単純な理由(りゆう)が説明(せつめい)されています。

「あなたは偉大なる神で、くすしきみわざをなされます。ただあなたのみ、神でいらされます」(10 節)。

詩篇記者(しへんきしゃ)がこのことについて注意(ちゅうい)深く考えたとき、もっと神さまについて学びたいという思いがよびさまされるのを感じました。ですから、彼は次のように祈りました、「主よ、あなたの道をわたしに教えてください」。それから彼はまた次のように約束(やくそく)しました、「わたしはあなたの真理に歩みます」。

しかし、そこで彼はとつぜん助けを祈りました、「心をひとつにしてみ名を恐れさせてください」(11 節)。

「心をひとつにして」？ひとつにするとはどういう意味(いみ)でしょうか。それはなんらかのかたちで、こわれてしまったもの、わかれてしまったものが、もう一度合わせられる必要があることを示しています。

あなたはわかれた心をもっていますか？わたしたちの多くは、そうです。神さまに従って、このお方が言われたことにしたいのに、わたしたちにはもうひとつの部分があって、なんらかのかたちで自分の思うとおりにしたいのです。すべての人がこれを経験(けいけん)するのでしょうか。ほとんどの人が、この問題(もんだい)に直面(ちょくめん)したことがあります。

しかし、イエスがこの地上におられたとき、はなはだしくむずかしい事態(じたい)になっても、ご自分の心がわかることはないことを保証(ほしょう)なさいました。このお方がわたしたちの罪(つみ)の代価(だいか)を支払うために、自ら天父よりひき離(はな)され、恐ろしい死に苦しむことを選ばれたことを知っておられた最大(さいだい)の危機(きき)の時に、次のように祈られました、「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままではなく、みこころのままになさってください」(マタイ 26:39)。

イエスはわかれた心をもつことをこのまれませんでした。わたしたちもそうすべきではありません。どのような代価であらうと、どのような苦しみであらうと、どのようなことに直面しよう、わたしたちが心をひとつにしてみ名を恐れることができるように神さまの助けを求めましょう。このお方がおできになるほかのすべてのことと同じように、このことについても、神さまはわたしたちを助けることがおできになります！

アップルサンドクッキー

【材料】

◎クッキー

薄力粉	4 カップ
全粒粉	1カップ
オリーブ油	1カップ
水	1カップ
塩	少々

◎フィリング

りんご	4 個
レーズン	適量
砂糖	1 / 2 カップ
レモン汁	大さじ 1

【作り方】

1. りんごをいちょう切りにし、砂糖とレモンを入れて圧力鍋で煮る。圧力がかかったら、火を弱めて 5 分ほどで火をとめ、そのまま圧力が抜けるまでおいておく。
2. 油 1 カップに粉と塩をざっくり混ぜたところで、水を少しずつ入れながら生地がまとまるまで混ぜ合わせる。
3. 手につかなくなったら均等に二つに分けてまるめてビニール袋に入れて冷蔵庫で 1～2 時間以上冷やす。
4. 粉をふったクッキングシートの上で生地を麺棒で鉄板の大きさにのばした物を二枚作る。1 枚を鉄板にのせ、1. の煮りんごとレーズンを均等に生地の上にのせて、その上にもう一枚の生地をクッキングシートごと上にかぶせる。
5. クッキングシートを外して、少し押さえてから、お好みの大きさに均等に切り目を入れ、上から刷毛で蜂蜜と豆乳を混ぜ合わせた物を塗る。
6. 上にクルミやアーモンドスライスなどを押しつけるようにしてのせて 180 度のオーブンで 20 分焼く。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



わたしの心を一つにして

親愛なる子どものみなさん、あなたは世界中のすべての人が神さまを愛し、従ってはいないことをおかしと思ったことはありますか。もしあなたがクリスチャンといっしょに育っているなら、天のすばらしいお



父さまについて学んでいることでしょうか。あなたはまたどのようにして、全宇宙を造(つく)られたお方が、この世界に、小さな赤ちゃんとして来られたかについても学んでいます。このお方は子どもとして生き、大人になり、完全な生涯(しょうがい)を送られました。このお方はついにご自分の手足にくぎを打ちこまれ、大きな木の十字架にかけられることをみずからおゆるしになりました。なぜでしょうか。それはわたしたちのすべてのあやまち、わるい思い、言葉、行為(こうい)をゆるしていただくことができるためでした。

もしかすると、みなさんは今日ここにおられる神さまの御霊(みたま)についても学んでいるかもしれませんね。このお方を目に見ることはできませんが、どのように働いてくださるかを見ることはできます。聖霊は、わたしたちや他の人々が、わがままで言うことをきかないものから、心のやさしい従順(じゅうじゅん)なものに変わるのを助けてくださいます。

しかし、わたしたちが神に従わない人だと言っている人々についてはどうでしょうか。なぜその人たちは、わたしたちのように神さまを愛さないのでしょうか。ある人はただあからさまにがんこになることを選(えら)び、神さまの御霊が自分の心をやわらげてくださるのをこばみます。しかし、他の人々は、本当のところ、少しも知らないのです。わたしたちのなすべきことは、彼らが自分を愛してくださる神様の愛を見て、理解できるように助けることです。

いつまでもこのような状態が続くのでしょうか。聖書には興味ぶかい言葉があります、「主よ、あなたが造られたすべての国民はあなたの前に来て、伏し拝み、み名をあがめるでしょう」(詩篇 86:9)。

キリストの再臨(さいりん：もどって来られること)後のさばきのときに、生まれたすべての人はついに、創造主(そうぞうぬし：造られたお方)が、自分たちに対していつくしみふかく、公正であられたことをみとめるように